

2021 年度 傾斜的研究費（全学分）
 社会連携支援（都連携研究支援・社会連携活動支援） 研究報告書

【研究費区分】：社会連携活動支援
 【研究代表者所属】：理学研究科生命科学専攻
 【研究代表者氏名】：江口 克之
 【研究代表者氏名フリガナ】：エグチ カツユキ
 【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- 砂村 栄力 森林総合研究所 主任研究員
- 寺山 守 本学理学研究科 客員研究員

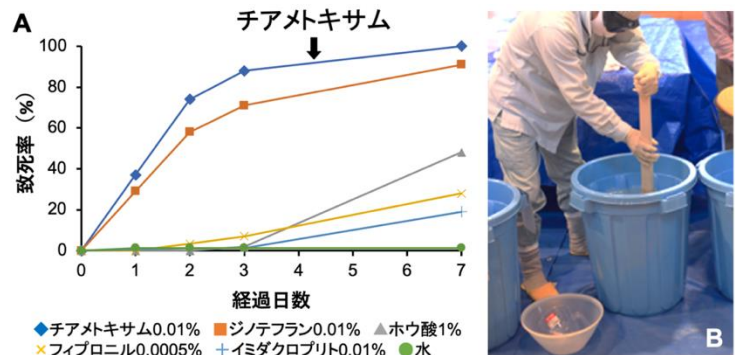
【研究課題名】：外来種アシジロヒラフシアリの防除法の開発

【研究実績の概要】

(1) 本種の基礎生態学的情報の収集、(2) 本種の八丈島における分布・生息環境の把握、(3) 本種の八丈島における繁殖季節性や生態の解明、(4) 新規ベイト剤（ハイドロジェルベイト）の開発、(5) 新規ベイト剤を用いた試験防除の実施に取り組んだ。

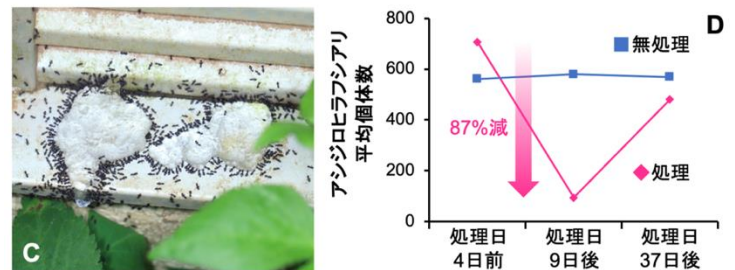
【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

申請者らが新規開発したハイドロジェルベイト（殺虫成分：0.001%チアメトキサム、誘引成分：30%ショ糖水溶液）が、飼育個体を用いた室内実験で十分な殺虫力を示した。このベイト剤を用いて約220世帯からなる八丈町榎立集落で試験防除を行なったところ、1ヶ月にわたって、本種の個体密度が顕著に低下した。



【東京都以外への社会への提言や活動の実績】

本研究で開発したハイドロジェルベイト、また地元住民が主体となって実践できる防除プログラムは、国内外で深刻な家屋害虫となっているアシジロヒラフシアリ及びその近縁種の防除に広く利用可能であると考えている。



(A) 飼育個体を用いた毒性試験の結果；(B) 一斉ぼうじょに用いるハイドロジェルベイトの作成の様子；(C) ハイドロジェルベイトに集まるアシジロヒラフシアリ；(D) 榎立集落での試験防除の結果。

【競争的資金への応募状況】

令和4(2022)年度環境研究総合推進費(環境問題対応型研究)、「防除最難関の樹上性外来アリの森林生態系リスク評価および有効な防除法の開発」、サブテーマリーダー、不採択

【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

なし